

## 第八話 「美しい本」

本をつくる工程は駅伝のようです。本を書く人がいて、デザインする人がいて、印刷する人がいて。最後、たすきをつないでくれるのが製本屋さん。クルミド出版の頼もしい最終走者は「美篤堂（みすずどう）」——信州伊那の里、美篤に製本工場のある、美しい本をつくる手を持った職人さんたちの会社です。

裁断して、折って、束ねて、糊をつけて、背表紙つけて……。一冊一冊すべて手と、手の延長のような道具・機械とで本をつくりまします。「紙の切り口にさわったら、誰が裁ったか分かる」「指で押し込む小口のカーブ具合で、どこの製本所で作ったか見当がつく」。そうした昔ながらの技術を受け継ぐ会社です。

今や全自動で製本ができるこの時代。手製本は時間も手間もかかりますが、その静かで手際よく美しい工程は、モノとしての本に最後の生命を吹き込んでくれるかのようです。

世界に二つとして同じものがない、あなただけの本をつくりまします。

（影山知明）